

Ⅱ 植 生 概 観

1. 富津周辺 30km 圏の植生概観

富津地区を中心とする 30km 圏には、東は市原郡加茂村より西は鎌倉市と藤沢市の市境まで、北は東京都大田区平和島、南は安房郡富浦町豊岡付近がおよその範囲に含まれる。

房総半島の西部地区の大部分および三浦半島と、東京湾岸の横浜市、川崎市の東半分、さらに東京都の南端が対象地域とされる。

この地域は房総半島、三浦半島の半島部の植生と、横浜市、川崎市、東京都の一部の都市地域の 2 タイプの植生配分の相違がみられる。半島部では、とくに、房総半島の東京湾岸に接した木更津市、富津市の丘陵地や屋敷林にはマテバシイ植林がめだつ。三浦半島にも一部マテバシイ植林がみられるが、房総半島ではとくに多い。房総半島、三浦半島は、低い丘陵地からなっている。房総半島南部に元清澄山(344m)、高宕山(315m)、愛宕山(408m)、御殿山(364m)など 300～400m を越す山地が分布しているが、その地形と人為的影響の相違により植生が多彩に配分され



Fig.10 富津地区（君津市）の景観の一部

台地斜面にコナラ林、屋敷の裏にモウソウチク林やタブノキ林、手前の耕作放棄畑地にはクズが侵入している。

Ein Bild der alten Landschaft, die noch stellenweise erhalten ist (Futtsu in der Stadt Kimitsu).



Fig. 11 房総丘陵にはクスギーコナラ群集が二次的に広く発達している。
Das Boso-Plateau ist noch heute weithin vom *Quercetum acutissimo-*
serratae als Sekundärwald bewachsen.

ている。やせた尾根がつづく元清澄山周辺では、ツガを伴ったモミ林（シキミーモミ群集）が発達し、今なお残されている。ツガが少いモミ林はさらに大多喜町会所、君津市坂畑などにも一部みられる。高宕山は房総半島の中央部に位置し、山頂付近より周囲を見回すと、山々が連なり半島が海で囲まれているを感じさせない。山々の麓の凹状地にはスギの植林が広く行なわれ、谷部は長く水田耕作が行なわれているが、高宕山周辺は、昔から15～25年に一度の伐採がくりかえされ、コナラが優占する二次林でおおわれている（クスギーコナラ群集）。コナラが優占する二次林は鹿野山南部の九十九谷まで続き広く夏緑広葉樹林が形成されている。凹状地に一部クスギ植林が行なわれている。御殿山周辺部は山麓部に小規模にスダジイ萌芽林（ホソバカナワラビースダジイ群集およびヤブコウジースダジイ群集）が点在する以外は、人為的影響により伐採・植林が広く行なわれている。現在スギ植林が行なわれていない地域では低木二次林やクズなどにおおわれたマント群落が形成されている。海拔300～400m以上の丘陵地、低山地は、環境条件のきびしい元清澄山周辺を除きコナラ林やスギ植林、クスギ植林におきかえられている。海拔100～200mの小丘陵地では鹿野山、愛宕山をはじめ三石山などスギ植林が広い面積で見られる。人家の周辺の低丘陵地では、その大部分にコナラ二次林（クスギーコナラ群集）、スギ植林、モウソウチク林などのモザイク状の配分が見られる。とくに君津市ではオオシマザクラ、ヤマザクラの植林が一部にみられる。三浦半島にも同様に大楠山、富士山、武山、返子市などにコナラ二次林



Fig. 12 高岩山谷部斜面に発達するクヌギ-コナラ群集
 Auf dem Abhang des Bergs Takagoyama (315m ü. NN) entwickelt
 sich ein *Quercetum acutissimo-serratae*.

とともにヤマザクラ、オオシマザクラ植林がみられる。丘陵地下部や、凹状斜面はスギ植林によって広く被れている。

自然林はきわめて面積が狭く富津を中心とする 30km 圏にはスダジイ林（ヤブコウジ-スダジイ群集，ホソバカナワラビ-スダジイ群集），タブノキ林（イノデ-タブノキ群集），ケヤキ林（イ

ロハモミジークヤキ群集), 海岸風衝低木林(マサキートベラ群集), モミ, ツガ林(シキミーモミ群集)などが自然林として神社, 寺院の社寺林, 屋敷林, 溪谷林, あるいは海岸風衝地や山地のやせ尾根, 斜面など環境の厳しい立地に小面積で残されている。横浜市では屋敷林の一部にシラカン林(シラカン群集)が発達している。

海岸部では, かつて砂丘部に広くみられたコウボウムギ群落(ハマグルマーコウボウムギ群集)他の砂丘植生の生育面積が現在埋立てなどにより減少している。三浦半島では長浜, 七里ヶ浜などに, 房総半島では, 富津岬, 保田などにわずかにみられるにすぎない。河口付近の塩沼地に生じるホソバノハマアカザーハママツナ群集やシオクグ群集, ウラギククラスなどで代表される塩沼植生は多摩川河口, 三浦半島昆沙門, 小びつ川河口などに局地的に残されているにすぎない。

富津周辺 30km 圏の地域では, 耕作地が比較的広くみられる谷地や, かつての海退のあとの低地は水田耕作が行われている。また丘陵や山地部は耕作畑地に利用されている。

2. 富津地区の植生概観 (7km 圏)

富津地区では, 富津岬を境界とした東側の東京湾沿岸部は埋め立てが進められている。西側の海岸部は富津岬の砂洲より続き砂丘地帯が続いている。富津地区西部は, 砂丘の影響もあり後背地に沖積地が広がっている。東部にゆるやかな丘陵地がいくつか位置している。

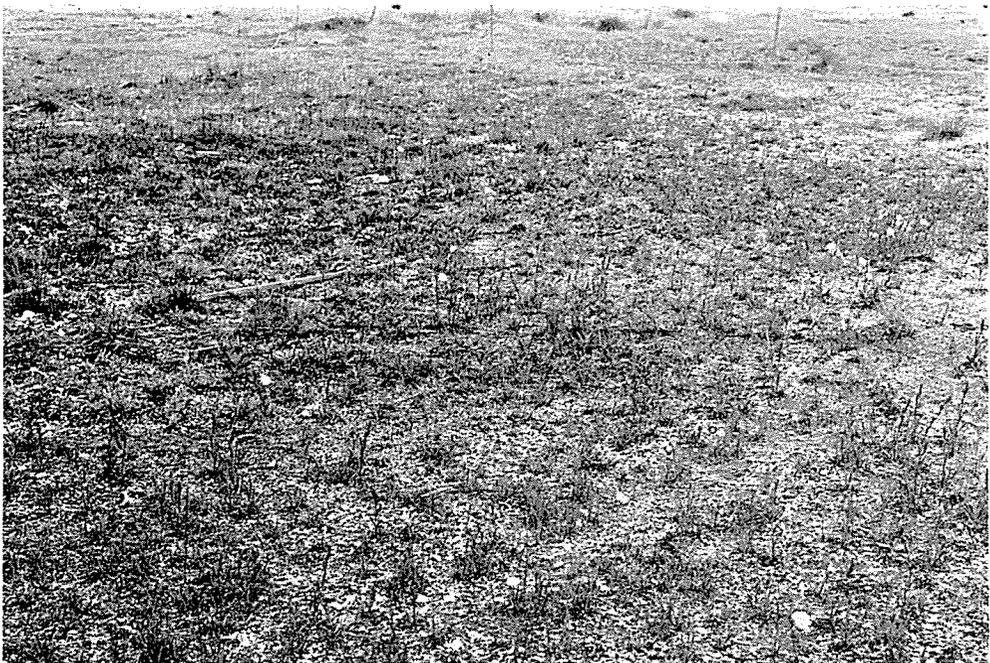


Fig. 13 富津大堀の埋め立て地にふきつけられ生育している外来牧草群落。
Auf Landgewinnungsflächen aus dem Meer wachsen spärlich Arten ausländischer
Wiesen, deren Samen hier angespritzt worden sind (Ohori in Futtsu).



Fig. 14 海岸の路傍や埋め立て地に多く生育するコマツヨイグサ。

An Wegrändern und auf Landgewinnungsflächen findet man häufig *Oenothera laciniata* (Küste Futtsu).

富津地区では広く人為的影響が加えられ、自然植生は少ないが、過度の開発は少なくまだ田園景観が広く残されている。

富津地区西部では、砂丘に防砂林、防風林として植栽されたクロマツ林が広がり、集落の周辺にマテバシイ植林による屋敷林が帯状にみられる。沖積低地は水田に利用され、近年放棄された水田にはヨシ群落が多くみられる。富津岬は、大部分にクロマツ植林が行なわれているが、沿岸部に砂丘植生のコウボウムギやハマヒルガオがギョウギシバに混生して生育している。

東京湾沿岸の埋立地にはコスカグサ、ネズミムギ、ホソムギ、オニウシノケグサなどの外来牧草が吹きつけられ飛砂を一時的に防止している。

富津地区東部の丘陵地には古い集落周辺にモウソウチク林、マテバシイ植林、スギ植林が多くみられる。ゆるやかな斜面、関東ロームにおおわれた台地には畑耕作が行なわれている。一部にはクヌギ、コナラの二次林がみられる。君津市に位置する国道16号線沿いの丘陵地は、その後背の新興住宅地の建設、あるいは、学校や団地建設のための造成地が広がっている。周辺部は帯状にオオシマザクラ植林や伐採跡地のススキ草原が占めている。

富津地区には溜池や沼が散在し、浮葉植物群落のヒシ群落などが発達している。